

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-190	15-097	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
<p>Why the communicable/non-communicable disease dichotomy is problematic for public health control strategies: implications of multimorbidity for health systems in an era of health transition.</p> <p>公衆衛生戦略における感染性／非感染性疾患という分類が抱える問題：疾病複合罹患が示す健康転換期の医療制度のあるべき姿</p>		
執筆者		
Oni T, Unwin N.		
掲載誌		
Int Health. 2015 Nov; 7(6): 390-9. doi: 10.1093/inthealth/ihv040.		
キーワード		PMID
感染性疾患、非感染性疾患、健康転換、低中所得国、多疾病罹患		26103981
要 旨		
<p>目的： 低中所得国において非感染性疾患の罹患が増加傾向にある一方、依然として感染性疾患の罹患患者数も多い。本論文では低中所得国における感染性／非感染性疾患の複合罹患・相互作用に関して文献レビューを実施した。</p> <p>方法： PubMed と EMBASE において 2014 年 12 月以前に出版された文献を検索した。キーワードは 3 大感染症（HIV、結核、マラリア）かつ、非感染性疾患（糖尿病、慢性閉そく性肺疾患[COPD]、慢性腎臓病、心血管病、心筋症、メタボリック症候群、神経認知疾患、認知症、てんかん）を用いた。得られた論文から抜粋し批判的（非系統的）レビューを実施した。</p> <p>結果： 低中所得国では、感染性疾患と非感染性疾患は直接的に、あるいは飲酒・喫煙・栄養状態不良・高血圧・大気汚染等を介して相互に関連していることが明らかとなった。</p> <p>結論： 低中所得国における感染性／非感染性疾患対策はそれぞれ独立して行われるべきではなく、飲酒・喫煙等の共通したリスク因子を考慮し、包括的に進めていくべきである。</p>		